



# 持続可能な同窓会を目指して

～役員を考える新しい同窓会のイメージ～

2020年1月



# JISD同窓会の現状・問題と新しい同窓会の構築に向けて

～現状を踏まえた新しい同窓会の方向性を検討～

## 同窓会の現状と問題

- ✓ 同窓会活動への消極的な参加
  - ・若い代の会員数激減（35～54期：全体の3%）など
- ✓ 役員・学年幹事の慢性的な欠員
  - ・欠員埋合せの作業に多大の時間と労力を費やしている
- ✓ 同窓会員数の拡大（現在1万人弱）
- ✓ 上記欠員による役員への作業負担増
  - ・既存役員へ運営・管理作業が皺寄せ（特に総会・懇親会）
  - ・エクセルなどでのマニュアルベースの非効率な作業
- ✓ 伊藤先生の事務局引退
  - ・伊藤先生担当の事務局作業の分散化と効率的な管理・運営
- ✓ 会員情報の開示厳禁
  - ・個人情報保護法やGDPRによる個人情報の取扱い厳格化

## 新しい同窓会の構築に向けて

- ✓ 2019/9/28 第1回ワークショップ実施
- ✓ 左記状況をワークショップ参加者に報告
- ✓ 3つのテーマにつき参加者から意見を収集
  - ・会員システムの導入
  - ・総会・懇親会について
  - ・同窓会の組織・意思決定について
- ✓ 新しい同窓会の方向性の明確化



↓  
役員の考える新しい同窓会のイメージを具体化し、同窓生に意見を求める

## 役員を考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の方向性

---

- 多くの会員の参加を前提とした現行の運営体制を簡素化し、会員の求める同窓会活動の運営に絞った体制に移行する。
- 費用対効果を検討した上で外部サービスを活用し、同窓会運営者の負担を軽減する。
- 総会、役員会、幹事会といった多層の意思決定プロセスをやめ、会員システムを活用し会員の意思を反映させる。

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の主な活動内容

- 同窓会の基本的な活動を5つに絞り込む。
  - ✓ 懇親会の運営の企画
  - ✓ 会員間コミュニケーションのサポート
  - ✓ 同窓会費の管理
  - ✓ 会員情報（同窓生・職員・賛助会員）の管理
  - ✓ 会員有志によるその他活動のサポート

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の運営体制

- 新事務局の設置
  - ✓ 3～4名にて編成
  - ✓ 懇親会企画、同窓会費・会員システム・ホームページの管理など
  - ✓ 任期は原則5年。有志による運営
- アドバイザリーボードの設置
  - ✓ 新事務局の活動のチェックとアドバイス
  - ✓ 元同窓会役員、恩師などの3～4名で構成
- 年度幹事について
  - ✓ 年度幹事は廃止し、世話役（連絡係）に変更。ただし選出は任意

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の懇親会

- 同窓会会員が一堂に会する懇親会を5年に1度開催する。
- 総会は廃止。意思決定、報告は会員システム上に移行。
- 懇親会は運営は積極的に外部サービスを利用し、受付など同窓生のすべき作業に限定したうえで、有志が担当する。

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の会員管理

- 会員システムを導入し、事務局はその管理を行う。
- 会員システムへの登録、メールアドレスなどの会員情報の修正は会員自らがを行い、事務局はそのサポートを行う。
- 登録した会員同士でのコミュニケーション、同期会の案内等は会員システム上で行う。(ただし個人情報の保護を配慮する。)

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の意思決定

- 事務局、アドバイザリーボードは意思決定は行わない。意思決定は会員システムのアンケート機能を用いる。
- 事務局とアドバイザリーボードのメンバーは年に1度集まり、事務局の活動のチェックを行う。また同窓会の運営に関して事務局が困ったときは随時アドバイザリーボードのアドバイスを受ける。
- 同期のまとめ役の人に世話役をお願いする。事務局から連絡の窓口のほか、同期の会員システムへの登録や懇親会への参加の声掛けなどに協力をお願いする。世話役のいない期は会員システムから連絡をする。

## 役員の考える新しい同窓会のイメージ

### 新しい同窓会の会計

- 同窓会の収支は常に会員システム上で公開する。
- 事務局とアドバイザリーボードのメンバーは年に1度集まり、会計監査を行う。監査結果は会計報告として会員システムで公開する。
- 収入、支出に関する意見は、アドバイザリーボードだけでなく、広く会員から会計システムを介して募る。
- 同窓会参加者には引き続き同窓会費の納入をお願いする。
- 同窓会システムの導入費は現在約400万円ある同窓会費から捻出する。年間数十万円のランニングコストは、懇親会の際に参加者から寄付を募る。より多くの会員の参加を促すため、使用料としては徴収しない。



# Thank You

デュッセルドルフ日本人学校同窓会・役員会  
[jisdyaquinkai@googlegroups.com](mailto:jisdyaquinkai@googlegroups.com)